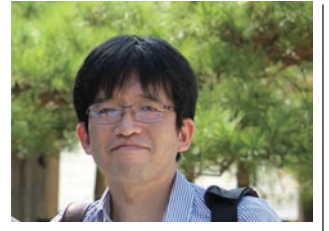


ニュースレター再始動にあたって

大野 晃嗣 教授

東北大学日本学国際共同大学院プログラム長



この THE HASEKURA BULLETIN を前回お届けしたのは、2020年7月でした。その後、未曾有のパンデミックによって、支倉リーグの対面での活動は大きく制限されました。ただ、我々はその間も歩みをとめず、昨年9月には、東北大学創立115周年、総合大学100周年記念行事の一環として支倉サミットと支倉シンポジウムを実施しました。その場には、12ヶ国22大学の加盟研究機関から、多くの研究者・院生が仙台に集い、研究成果の発表を行うとともに、人文・社会科学（SSH）分野の未来像について討論をいたしました。

そして更に、これからのSSH分野の振興のために、この支倉リーグがプラットフォームとしての役割を果たすことを、「支倉宣言」として公にいたしました。このように、SSH分野の世界的コミュニティとしての支倉リーグは着実に拡大し、2023年6月にはオーストラリアやアメリカの大学も加わり、28大学を擁するネットワークに成長しています。

今年、支倉リーグはパンデミックを乗り越え、対面での活動を積極的に再開いたしました。我々東北大学のメンバーも、2019年に創設された日本学国際共同大学院（GPJS）を中心に、支倉リーグに参加されている研究者と共に、様々な研究会や講演会を実施しています。GPJSのプログラム生も現在五期生にいたり、多くの院生がこのネットワークを頼りに海外留学を行い、国際的・学際的経験を積んでいます。また今年度後半には、年次総会ともいべき支倉シンポジウムも計画しております。

この度、このような活動の様子を広く伝えるべく、THE HASEKURA BULLETINの第三号をお届けいたします。支倉リーグは、2015年に設立されました。その設立当初から学問の自由と多様性に大きな価値をおくこのネットワークは、研究機関同士の協定よりも、研究者個人の熱意と自主性に強く支えられています。このTHE HASEKURA BULLETINが、そのようなリーグメンバーの活気ある活動を伝える場となることを願っています。

ニュース

- 2023年3月 総長教育賞受賞
GPJSは、国際的に活躍できる学生の育成に貢献していること、また支倉サミットにおいて本学人文社会科学系の教育・研究における国際展開の中心的存在であることを示したことから、3月17日に総長教育賞を受賞しました。
- 2023年4月 新プログラム生（5期生）進学
今期は、4名がGPJSプログラム生となりました。これから、主指導教員とメンター教員をはじめとするGPJS教員からの助言を受けながら研究を進め、国際カンファランス、Ph.D. ワークショップなどで経験を積んだ後、6か月以上の海外留学を経験することになります。



今後の予定

- 2023年11月上旬
カーティン大学日本学ワークショップ（オーストラリア）
テーマ：“Japan in the world: Past, Present, Future”（仮）
- 2023年11月中旬
ワルシャワ大学、ヤゲウォ大学日本学シンポジウム（ポーランド）
テーマ：“East meets East: Japanese Studies in Poland and Japan”
- 2023年12月9日（土）、10日（日）
2023年度GPJS国際カンファランス（東北大学）
テーマ：“魂と共感”
基調講演：佐藤弘夫東北大学名誉教授 / GPJS 特任教授
- 2024年2月
第8回支倉シンポジウム（ローマ大学ラ・サピエンツァ、イタリア）

イベント報告 (2023年4月～6月)

- 🌀 2023年4月28日(木)第12回支倉セミナー
Representation and uses of Asia on the French stage in the 17th and 18th centuries
講師: Julien Dubruque 先生 (ヴェルサイユ・バロック音楽研究所)
(東北大学文学研究科棟 208 講義室)
司会: 黒岩卓准教授 (GPJS 副プログラム長)

フランスのヴェルサイユ・バロック音楽研究所のジュリアン・デュブリュック氏による講演会が行われました。17・18世紀のフランス・オペラにおけるアジアの表象の実態が、衣装の図像や音楽の引用を伴いつつ論じられました。

アジア的な人物が登場するシーンが新しい音楽書法を試みる機会になっていたこと、日本の表象よりも中国の表象が多かったこと、中国の表象がコミックなものであるのに対して日本の表象が悲劇的なものであったこと、衣装の細部などにおいて正確な観察のあとがみられることなど、西欧の文化的伝統における日本およびアジアの表象を考える上で興味深い示唆に満ちた講演会でした。



- 🌀 2023年5月12日(金)第1回クラスター研究会
2023年3月に行われた日本学国際共同大学院関連の
イベント報告会
(東北大学文学研究科棟大会議室)
司会: 安達宏昭教授 (GPJS 研究クラスター長)

2023年度最初の研究会として、2022年度後半に行われた(1)ローマ大学ラ・サピエンツァで開催された“3rd International Doctoral Symposium on Asian and African Studies”と、(2)東北大学で開催されたGPJS International Workshop “Oceans as places of exchange and imagination: Pacific, Atlantic, and the Indian Ocean”の内容を、企画・参加した教員(横溝博教授、黒岩卓准教授、木山幸子准教授)と大学院生(鏡耀子、細井拓真、エレナ・ファブレッティ)が報告しました。

実際に海外へ渡航したり人を迎えたりする上での苦労とそれにまさる喜びが、その後の研究活動の原動力になることを再確認し、新年度のGPJSの活動の幕開けとなりました。



- 🌀 2023年6月1日(木)国際ワークショップ
冷戦期日本の学生運動とデジタルアーカイブ
(東北大学文学研究科棟大会議室)
司会: 安達宏昭教授 (GPJS 研究クラスター長)

GPJSは、史料館・図書館とともに表記の国際ワークショップを開催しました。今年度構築を目指す東北大学総合知デジタルアーカイブと、支倉リーグの海外大学との連携のもとで、それを活用する研究・教育について、ローマ大学ラ・サピエンツァのマルコ・デル・ベネ先生とステファノ・ロマニョーリ先生、大阪大学の宮本隆史先生、東北大学の加藤諭准教授と半澤智絵附属図書館情報サービス課長が報告を発表し、フロアの参加者と議論を交わしました。

東北大学の学生運動資料の特徴や、すでに学生運動資料をデジタル化した東京大学の事例からデジタル化の課題、ローマ大学での東北大学の学生運動資料を使った教育・研究、さらにその国際的な利用においての要望などが報告されました。約30名が集まり、幅広い観点から濃密な議論が交わされました。



- 🌀 2023年6月29日(木)第2回日本学国際研究クラスター研究会 / 第13回支倉セミナー
東アジアにおける近代文学の起源
講師: 橋本悟先生 (ジョンスホプキンス大学助教授)
(東北大学文学研究科棟視聴覚教室)
司会: 安達宏昭教授 (GPJS 研究クラスター長)

アメリカのジョンスホプキンス大学で比較文学をご専門とする橋本悟先生をお招きし、日本、韓国、アジアにおける近代文学の起源について、東アジアにおける越境的な文化的伝統の文脈の中で論じていただきました。

当日は、日本文学をはじめ、歴史学、言語学、経済学など多様な領域を専攻する教員・学生約60名が聴講し、GPJSの今後の展望についても自由に意見交換が行われました。

橋本先生は、安達教授の中学校専任教員時代の教え子であるというご縁で、今回ご講演をいただくことができました。学際的視野で国際的に活躍なさる橋本先生に、大いに刺激を受けました。



GPJS プログラム生インタビュー

第1回

呉 佩遥 (WU, Peiyao) さん (GPJS 第1期修了生)

東北大学大学院国際文化研究科国際日本研究講座・博士後期課程修了

現在、中国上海師範大学人文学院世界史系・講師



今号から、プログラム生の生の声を聴いていくことになりました。第1回目に登場するのは、卓越した研究力で大学院生活を颯爽と駆け抜けた1期生の呉佩遥さんです。呉さんは、2023年3月に博士号を取得し、6月から中国に帰国し、大学教員として就職しました。GPJS 第1号の新博士に、GPJS や東北大学について、今の生活について、今後の展望についてインタビューしました。

Q1. ご就職おめでとうございます。新天地での研究と教育が始まったばかりの今のお気持ちを教えてください。

— 今年の6月1日から上海師範大学人文学院世界史系に就任し、主に来学期の「世界近現代史」の授業の準備や、新しく設立された「アジア文明研究センター」の活動の企画に携わっております。大学の時から、研究職に就き、自分の興味のある分野に没頭したいという長年抱いてきた夢がかなった気持ちです。東北大学で過ごした6年間で出会った先生方や研究の仲間の支えと励みで、ここまで歩んできました。改めて感謝を申し上げたいと思います。そしてこれからは東北大学で培った、日本や中国、そして英語圏に向けて発信する能力を活かしつつ、ワクワクする気持ちで新たな職場でやったことのない仕事にチャレンジし、グローバルな視点で中国の日本学研究に貢献していく所存です。

Q2. 呉さんは、本学国際文化研究科に在籍しながら GPJS で研鑽を積み、在学中に藤野先生記念奨励賞、修了時には総長賞を受賞されました。東北大学という大学をどのように振り返りますか。

— 学部研究生として仙台で生活を始め、「近代日本仏教」という世界と出会ったのは、6年ほど前のことです。この6年間の研学生活を通して、東北大学建学以来の伝統である「研究第一」と「門戸開放」の理念をしみじみと感じました。中国人留学生として日本宗教研究の長き伝統を持つ東北大学で、国際文化研究科の近代日本ゼミに属しながら、指導教員のオリオン・クラウタウ先生とゼミの先生から密度の高い指導を受け、「宗教」にまつわる一連の問題のみならず、「言葉」そのものの可能性について学びました。そして博士前期課程2年目から、新たに成立した日本学国際共同大学院プログラムの第一期生として加わり、プログラムの先生から学ぶことで、分野横断的能力と国際的視野を育むことができました。

Q3. GPJS では、どのような経験をしましたか。

— まず、GPJS の教育プログラムが充実しており、自分の研究に対して他分野の先生からの意見を聞くことができ、研究の新たな可能性が開かれました。そして、これまでの日本研究においては、英語圏、日本語圏、(日本を除く)東アジア圏など、それぞれの研究者によって異なるオーディエンスにむけた情報発信がなされることで、同じ対象が扱われながらも領域が分断されてきた感があります。GPJS では毎年、国際シンポジウム、あるいはワークショップに参加する機会があったのみならず、実際にハイデルベルク大学に1年間ほど行き、ハイデルベルク大学のハンス・マーティン・クレーマー先生など海外の研究者と交流し、視野を広げることができました。

Q4. 今後、研究・教育者としてどのように活動したいですか。

— 今後、自己の研究成果を国際的に議論し、発信することができる研究者となるように活動していきたいと思えます。すなわち、「宗教学」という専門分野において確固たる基礎を築きつつも、学際的に活躍し、他分野の方法を自己の研究に活用できる学者を目指しております。さらに、研究者の責務として学術的成果を発表することを前提に置きながらも、日本語および日本の思想・文化に関する教育活動にも積極的に携わり、学生の個性を尊重する教育者となることを目指し、分野全体に豊かな貢献をもたらすことを目標としております。その際に、教科書的な知識を叩き込むよりも、学生の論理的に思考する能力や異文化理解の能力を築くことを重視したいです。

ありがとうございました。呉さんには、ぜひ今後も東北大学との関わりを持っていただきたいと思います。どうか健康第一でご活躍ください！



支倉リーグの今



参加大学 (2023年6月現在)

- | | | |
|----------------------------|--------------------------|------------------------|
| 1. カーティン大学 (オーストラリア) | 11. ボローニャ大学 (イタリア) | 21. グラナダ大学 (スペイン) |
| 2. ウィーン大学 (オーストリア) | 12. フィレンツェ大学 (イタリア) | 22. サラマンカ大学 (スペイン) |
| 3. ヘント大学 (ベルギー) | 13. パドヴァ大学 (イタリア) | 23. ストックホルム大学 (スウェーデン) |
| 4. ルーヴァン・カトリック大学 (ベルギー) | 14. ライデン大学 (オランダ) | 24. ローザンヌ大学 (スイス) |
| 5. プリティッシュコロンビア大学 (カナダ) | 15. ユトレヒト大学 (オランダ) | 25. イーストアングリア大学 (イギリス) |
| 6. グルノーブル・アルプ大学 (フランス) | 16. オスロ大学 (ノルウェー) | 26. シェフィールド大学 (イギリス) |
| 7. ハイデルベルク大学 (ドイツ) | 17. ヤゲウォ大学 (ポーランド) | 27. ジョージア大学 (アメリカ合衆国) |
| 8. ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学 (イタリア) | 18. リスボン新大学 (ポルトガル) | 28. 東北大学 (日本) |
| 9. ナポリ東洋大学 (イタリア) | 19. モスクワ国立大学 (ロシア) | |
| 10. ローマ大学ラ・サピエンツァ (イタリア) | 20. マドリード・アウトノマ大学 (スペイン) | |

編集後記：2023年度は、6月までにすでに4回の講演会等を開催しており、今後もさまざまなイベントが予定されています。プログラム生たちも、続々と支倉リーグ参加大学をはじめとする海外の大学へ赴いています。HPも随時更新しておりますので、ぜひご覧ください。次号以降のNLでは、支倉リーグ加盟大学の研究者等の情報も掲載していく予定です。GPJSの広報活動は、運営委員のほか、(有)リヴァーナの皆さまの献身的なご助力で成り立っております。どうか今後ともご支援いただけますようお願いいたします。(文責：GPJS 広報担当運営委員・木山幸子准教授)

東北大学
 日本学国際共同大学院
 事務局
 980-8576 仙台市青葉区川内 27-1
 e-mail: gpjs@grp.tohoku.ac.jp

